

AED啓発

突然の心室細動で高校生の長女を亡くした経験から自動体外式除細動器（AED）などの普及活動を進めてきた福井市の川崎眞弓さんの歩みが、日本語と英訳文を併記した「バイリンガル絵本」になつた。川崎さんは「たくさんの人にお読みもらい、勇気を持ち、自分にできることをやることで命をつなげる可能性があることを知つてもらえたら」と話している。

歩み絵本に

（近藤洋平）

娘の死契機に活動 川崎さん（福井）

絵本を制作したのは、東京のボランティア団体「防災一人語り」推進グループ。同団体は2005年から、さまざまなもの語りに基づく作品（脚本）を朗読したり、落語を披露したりしてきた。19年からは子どもたちの防災意識啓発と行動力の向上を目指し、脚本を原作にした絵本化に乗り出した。絵本化第1号となつた「いのちのばとん」は02年に川崎さんの長女沙織さん（当時16歳）が亡くなった実話を基に表紙には漫画家のアシスタントが夢だった沙織さんが生前、手がけたイラストを掲載。文は首森奏さん（東京）、文

中イラストは公募に応じた佐藤洋平さん（東京）が担当。英訳文を併記してバイリンガル版とした。

バイリンガル版完成

「救命の可能性知って」

表紙には漫画家のアシスタントが夢だった沙織さんが生前、手がけたイラストを掲載。文は首森奏さん（東京）、文中イラストは公募に応じた佐藤洋平さん（東京）が担当。英訳文を併記してバイリンガル版とした。

絵本版は、沙織さんの命日の9月10日を発行日とした。福井市内の小中学校と県内の高校など約110校のほか、岐阜、長野、山形、高知県などの小中高校に寄贈した。

絵本は同グループのホームページ（「防災一人語り」）で検索）で自由に閲覧できる。日本語のみの絵本もある。

している。沙織さんは、体育祭のリレー中、次走者にバトンを渡した直後に意識を失い、4日後に亡くなつた。その後、川崎さんがNPO法人を立ち上げ、AED普及を進めるとともに、救命講習を行ってきたことがまとめられている。日本語版を制作後、英訳文を併記してバイリンガル版とした。

タ木曜さん（神奈川）が担当した。英訳は角田貴美枝さん（福井市）が手がけた。

グループの加藤雅代表は「バイリンガル絵本が、子どもたちの救命への意識啓発の役に立てば」と願う。川崎さんは「沙織からのメッセージがたくさん的人に届くことに感謝したい」と話している。

製本版は、沙織さんの命日の9月10日を発行日とした。福井市内の小中学校と県内の高校など約110校のほか、岐阜、長野、山形、高知県などの小中高校に寄贈した。

絵本は同グループのホームページ（「防災一人語り」）で検索）で自由に閲覧できる。日本語のみの絵本もある。



絵本「いのちのばとん」（右）とバイリンガル版を手にする川崎さん＝福井市・福井新聞社